巻頭言

「求められる技術力」

取締役執行役員　技術本部長
森　拓也

『技術と経営に優れた会社が生き残るシステムづくり』，国土交通白書に掲載されて以来，近年頻繁に用いられるフレーズである．わが国の建設投資の推移を見ると，1990 年度 81.4 兆円，2000 年度 66.2 兆円，2010 年度の見通しは 40.7 兆円とまさにこの 20 年で半減している．市場の縮小が続くなか，建設業界の淘汰，再編が叫ばれ，各社，生き残りを賭けた熾烈な競争を展開している．冒頭の言葉は，まさに生き残るための条件を示しているものと認識している．すなわち，社会的責任を果たしつつ，高い技術力を有する会社が生き残る，ということである．

では，建設会社に求められる技術力とは何だろうか．

第一に，施主の満足する構造物を，不具合や事故無く完成させることである．建設業は，現地単品生産であり，同じような構造物であったとしても，施工する場所や時期が変われば，適切な施工方法もまた変わる．すなわち，常に応用力が要求される業種であり，それだけになお一層，基本をしっかりやることの重要性が問われるのである．何が本当に重要かという本質をしっかり捕まえ，それを実現するための工夫や取り組みが，構造物の品質を大きく左右する．また，コスト削減を可能にする方法を見いだすことにもつながる．まさに現場技術者の腕の見せ所でもあり，建設業の技術は現場に在り，と言われる所以である．

一方，新技術，新工法を積極的に開発し実用化することもまた，企業としての重要な技術力である．当社は，ＰＣ技術を中心として，様々な新技術を世に出してきた歴史を持っている．わが国初のＰＣ橋である長生橋をはじめ，ＰＣ鋪装，合成鋼管巻立てアーチ工法，波形鋼板ウェブ橋の導入などである．また，建設市場の縮小に対する対策として，近年では，土木分野の H 型 PC 杭や電気防食，建築分野の PCaPC や外付けフレームによる耐震

補強などの開発に力を注いでいる．リニューアル，環境技術は，建設分野では数少ない成長分野であり，この分野で他社に先んじることが，企業としての大きな武器になるからである．ただし，こういった新技術では不都合や新たな課題に直面することが少なくない．まさに産みの苦しみであり，技術としての完成度を高めるためには，これらをひとつひとつ解決していく努力が必要である．

このような技術力を発揮し，他社との技術競争に打ち勝つためには，ひとりひとりの技術力を高め，技術者集団としてのピーエス三菱の総合力を高めなくてはならない．今回の技報には，菱建基礎やピーエスケーなどの関連会社からの投稿を含め 31 編の論文，報告が掲載されている．いずれも，当社グループの技術者が経験し，工夫した貴重な記録であり，会社としても価値ある無形の財産である．そこには，各自が直面している課題の解決ヒントがあるかもしれない．また，将来の参考となる貴重な情報があるかもしれない．さらに，同じ会社の仲間が，一生懸命考えた足跡を知ることは，我々技術者ひとりひとりの“ヤル気”を刺激するものと期待している．是非，一読していただきたい．